1. 平成8年度総会

恒例により、大会委員長(神作博教授)を議長と して選出し、以下の報告及び審議・決定がなされた。

<報告>

- (1) 事業報告
 - 1) 会員異動状況について
 - 2) 会費納入状況について
 - 3) 機関誌21号の発行について
 - 4) 認定応用心理士事務局報告
 - 5) 公開シンポジウム開催について
- (2) 日本心理学諸学会間連絡会報告
- (3) 第62回大会会計報告 開催校,共立女子大学より報告された。
- (4) その他

<審議>

(1) 学会賞・奨励賞の設置について

常任運営委員会より「日本応用心理学会学会 賞・奨励賞」選考規定案が提出され、承認され た。(別掲)

(2) 学会史編纂について

常任運営委員会より日本応用心理学会学会史編集についての企画が提出され、承認された。(別掲)

(3) 平成7年度決算について

監査委員の馬場房子、田之内厚三両氏の監査 を受けた決算書が事務局から提出され、承認さ れた。

(4) 平成8年度予算案について

常任運営委員会,運営委員会において承認された後,総会で承認された。

(5) 会計監査委員の一部交代について

常任運営委員会において推薦がなされ、その 後運営委員会ならびに総会において、馬場房子 氏から玉井寛氏への交代が承認された。

(6) 次期運営委員について

常任運営委員会において推薦がなされ、総会において次の6氏が承認された。

足立浩平

馬場房子

川 本 利恵子

松 下 由美子

浮 谷 秀 一

谷口泰富

(7) 平成9年度(第64回)大会開催校について 駒沢大学に決定(大会委員長 中村昭之教授) 日程は8月30日・31日

(8) その他

この後,

- ·第64回大会開催校挨拶
- ·本大会(第63回) 開催校挨拶
- 閉会の辞

と続き、盛会のうちに終了した。

2. 一般活動報告・事務諸報告

- (1) 第63回大会(平成8年9月6日・7日)中京大 学において開催。
- (2) 『応用心理学研究』第21号が平成8年12月に発刊され、会員及び関係機関に送付した。

なお,第22(1)号は,平成9年春(6月頃)に 発刊予定。

第22(2) 号も,順次平成 9 年中に発刊予定であ る。

平成9年度より,年2回発行の予定になった ので、活発な投稿が期待される。

(3) 平成8年度公開シンポジウムが盛会のうちに開催された。

(平成9年1月25日,於日本大学文理学部)

テーマ:「現代社会と父親の発達」

シンポジスト:柏 木 恵 子(白百合女子大学)

花 沢 成 一(日本大学)

飯 長 喜一郎(お茶の水女子大学)

企 画:高 橋 たまき(日本女子大学)

司 会:高 嶋 正 士 (共立女子大学)

抄録は本号に掲載。

(4) 日本応用心理学会事務局が、平成9年4月1日 をもって、日本女子大学(事務局長高橋たまき) より白梅学園短期大学(事務局長荻野七重)に 移転した。

3. 会員異動

新入会員 別掲退 会者 別掲

4. 寄贈文献

別掲

◆ 日本応用心理学会学会史編集について ◆

1996. 9. 6

一, 趣旨 本学会が誕生してほぼ3分の2世紀をむかえる。

この間の経過を記録として残し、将来への展望をはかることを目的として,ここに日本応用心理学会学会史(仮称)の刊行を

企画した。

- 二,本誌は応用心理学研究の別冊とし,1998年3月 発行予定とする。
- 三,編集委員の選出は次期常任運営委員会で行う。 提案者:大村 政男・中村 昭之・林 潔

◆ 日本応用心理学会学会賞・奨励賞選考規定および細則 ◆

日本応用心理学会学会賞選考規定

- 第一条 日本応用心理学会は、応用心理学の振興と 発展を図るため、ここに日本応用心理学会学 会賞を設ける。
- 第二条 日本応用心理学会学会賞(以下,学会賞と略す)は,推薦の時点よりさかのぼり原則として二年以内の応用心理学の研究および実践に特に貢献した会員に授与する。
- 第三条 受賞者の応用心理学の研究および実践の対象となるものは、次に含まれるものとする。
 - 一,機関誌『応用心理学研究』所載の論文。
 - 二,学術出版物。
 - 三, 実践活動の報告書。
 - 四、その他これらに準ずるもの。
- 第四条 学会賞受賞者の選出は、候補者の推薦およ び選考により行う。

選考方法については、別に定める。

第五条 学会賞の授与は年次大会時に会長が行う。

日本応用心理学会奨励賞選考規定

- 第一条 日本応用心理学会は、応用心理学の振興と 発展を図り、当該領域の研究者の育成をはか るために、ここに日本応用心理学会奨励賞を 設ける。
- 第二条 日本応用心理学会奨励賞(以下,奨励賞と略す)は,推薦の時点よりさかのぼり原則として二年以内の応用心理学の研究および実践に特に貢献した会員に,研究活動を奨励する目的をもって授与する。

- 第三条 受賞者の応用心理学の研究および実践の対象となるものは、次に含まれるものとする。
 - 一,機関誌『応用心理学研究』所載の論文。
 - 二,学術出版物。
 - 三, 実践活動の報告書。
 - 四、その他これらに準ずるもの。
- 第四条 奨励賞受賞者の選出は、候補者の推薦およ び選考により行う。

選考方法については、別に定める。

第五条 奨励賞の授与は年次大会時に会長が行う。

日本応用心理学会学会賞および奨励賞候補者選考細則

第一条 候補者の推薦は運営委員及び名誉会員によ

り, 2名以内の指名を郵送によって行う。

推薦は別紙様式により,以下を明記するものとする。

- 1. 候補者氏名
- 2. 該当業績
- 3. 推薦理由
- 4. 推薦人氏名
- 第二条 候補者の選考は第一次選考と第二次選考に よって行う。〒第一次選考は,選考委員会に おいて行う。

第二次選考は常任運営委員会において行う。 選考委員会は4名で構成する。選考委員会 委員は常任運営委員とし、常任運営委員会の 互選とする。

選考委員の任期は2年とし,重任を妨げない。

推薦書式:

平成 年 月 日

日本応用心理学会会長 殿

下記のとおり、日本応用心理学会学会賞受賞候補者を推薦します。

日本応用心理学会学会賞受賞候補者推薦書

- 1. 候補者氏名
- 2. 該当業績

3. 推薦理由

4. 推薦人氏名

144	薦		-43	
A11:	严	Æ.	71	

平成 年 月 日

日本応用心理学会会長 殿

下記のとおり、日本応用心理学会奨励賞受賞候補者を推薦します。

日本応用心理学会奨励賞受賞候補者推薦書

- 1. 候補者氏名
- 2. 該当業績

3. 推薦理由

4. 推薦人氏名

平成7年度決算報告

1	収 入		支 出					
項目	実 行 額	予 算 額	項目	実 行 額	予 算 額			
繰 越 金	209,764	209,764	第62回大会補助費	500,000	500,000			
会 費	4,394,000	4,430,000	シンポジウム費	169,996	200,000			
過年度分	312,000	180,000	印 刷 費	1,107,980	1,700,000			
	(4,500 * 12)	(6,000* 30)	機関誌	1,097,980	1,700,000			
	(6,000 * 43)		その他	10,000	0			
本 年 度 分	4,032,000	4,200,000	通 信 費	156,562	190,000			
	(6,000 * 672)	(6,000*700)	機関誌	75,195	90,000			
賛 助 会 費	50,000	50,000	会 員 名 簿	0	0			
「応用心理士」関係	2,240,000	2,650,000	その他	81,367	100,000			
雑 収 入	605,349	100,000	機関誌編集費	100,000	100,000			
平成6シンポ精算	33,112		名簿作成積立金*	300,000	300,000			
論 文 集 デ ー タ ベース化許諾料	496,048		ミニ通信費	71,040	80,000			
その他	76,189		さいころじすと費	88,860	100,000			
			諸学会連絡会費	10,000	7,000			
			交 通 費	150,000	200,000			
			事 務 局 費	227,610	250,000			
			アルバイト費	820,500	864,000			
			「応用心理士」関係	1,424,777	2,650,000			
			予 備 費	0	248,764			
			次年度繰越金	2,321,788	0			
合 計	7,449,113	7,389,764	合 計	7,449,113	7,389,764			

以上の通り相違ありません。

平成8年7月26日

 監査委員
 田之内
 厚
 三
 印

 監査委員
 馬
 場
 房
 子
 印

平成8年度予算案

			収		入					支		出		
	項		目		予	算	額		項	目		予	算	額
繰	越	金	0			2,32	1,788	第63回	回大会補	助費			500	0,000
会		費				4,430	0,000	シン	ポジウ.	ム費			200	,000
	過	年	度	分		180	0,000	印	刷	費			2,200	0,000
						(6,000	* 30)		機	関	誌		2,100	0,000
									そ	0)	他		100	0,000
	本	年	度	分		4,200	0,000							
						(6,000	* 700)	通	信	費			350	0,000
	賛	助	会	費		50	0,000		機	関	誌		200	0,000
									そ	Ø	他		150	0,000
「応月	用心理士	」関	係			2,000	0,000	機関	誌 編 솈	集費			200	0,000
								3 =	- 通 信	費			100	0,000
雑	収	入				6	0,000	さいさ	ころじす	と費			100	0,000
								諸学名	会間連絡	会費			10	0,000
								交	通	費			300	0,000
								事	務局	費			450	0,000
								事務	局移車	広費			60	0,000
								アル	バイ	ト費			962	2,000
								「応用	心理士」	関係			1,200	0,000
								名簿	作成積	立金			400	0,000
								学会	賞・奨	励賞積	立金		400	0,000
								応用心	理学会学	会史刊行	積立金		1,000	0,000
								予	備	費			379	9,788
合				計		8,81	1,788	合			計		8,81	1,788

日本応用心理学会第62回大会決算報告

1995年9月9·10日 於: 共立女子大学

収 入		支 出				
適用	金 額	適用	金 額			
大会参加費	1,124,000	印 刷 費	1,554,282			
〔内訳〕予約分 5,000×177	885,000	〔内訳〕封筒, 1 号通信,振込用紙				
当日分		原稿用紙、参加はがき				
正会員 5,500× 50	275,000	プログラム、論文集				
臨時会員 6,000× 11	66,000	コピー代,他				
学生会員 500× 28	14,000	通 信 費	376,320			
論文集代金	1,064,000	〔内訳〕 1 号通信郵送				
〔内訳〕予約分 5,000×172	860,000	プログラム郵送				
当日分以降 5,500× 36	198,000	論文集郵送,他				
機関扱い 6,000× 1	6,000	記念品費	115,360			
プログラム代金 500× 2	1,000	シンポジスト・講師謝礼費	260,000			
懇親会費	272,500	懇 親 会 費	564,801			
〔内訳〕予約分 5,000× 38	190,000	写 真 費	53,038			
当日分 5,500× 15	82,500	宿 泊 費	78,340			
広 告 料	550,000	人件費・交通費	352,000			
雑 収 入 (祝い金)	10,000	文具・消耗品費	93,258			
学会本部より補助金	500,000	大会当日運営費	392,605			
共立女子学園より補助金	300,000	準備委員会運営費	97,496			
合 計	3,937,500	合 計	3,937,500			

監査の結果、上記の収支が適正であることを認めます。

1996年3月1日

共立女子学園事務局長

高橋勝彦印

共立女子大学家政学部教授

松 崎 巌 ⑩

以上の通り,ご報告いたします。

1996年3月1日

日本応用心理学会第62回大会

準備委員長 高 嶋 正 士 ⑪

日本応用心理学会常任運営委員会議事録

1996年度第 4 回(1996年11月)

日 時:1996年11月22日(金)18:00~22:00

場 所:日本女子大学 目白キャンパス 第3会議室

出席者:中村,稲毛,内海,大久保,大島,大塚, 岡村,荻野,小野,垣本,越河,田中(昌),

長谷川、馬場、林、福原、正田、村井

事務局(高橋, 久東, 渡辺, 荘村)

報告事項:

議題に入る前に、高橋事務局長より、次期常任 運営委員の選挙で、開票の結果、22名が選出され たとの報告があった。内、都合で1名が辞退し、 2名が保留である。

1.64回大会について(中村大会準備委員長)

1号通信を準備中で、1月初めに発送予定である。日程は、平成9年9月5-7日と決定している。公開シンポジウム、公開講演各1件、シンポジウム、ワークショップも予定している。詳細は、次の本委員会で報告する。

心理学関係の他学会と日程が重複しているとの 指摘があったため、日程を再考する。

2. 機関誌編集委員会より(垣本)

21号は、年内の発送予定である。3編が不採択となった。来年度から、年2冊発行の予定だが、22号の原稿は、6編集まっている。

3. 認定「応用心理士」事務局より(岡村)

ニュースレターを9月1日に発行し、9月13日 に認定審査委員会が開かれた。

現在,10名の申請があり,通算87名が申請している。

大村,高嶋両認定審査委員より,委員辞退の申し出があるとのことで,審議事項で検討することとなった。

4. 諸学会間連絡会より(荻野)

会合が12月4日に開催されるので、特に報告事項はない。

5. その他

高橋事務局長より、新しい"入会の栞"と文部 省の研究補助費についての文書が、回覧された。

「公開シンポジウム」のポスターを作成し郵送するので、各所属機関で掲示していただきたい。

審議事項:

1. 学会賞・奨励賞選考委員について

選考委員を,本委員会メンバーから4名選出したい。

学会賞・奨励賞選考委員長に、正田委員を決定 した。

2. 学会史編集委員について

学会史編集委員長に、村井委員を決定した。

1. の学会賞・奨励賞選考委員とともに、各委員 長が選び、次回本委員会で承認する。名誉会員に 顧問になっていただいてはどうか。

3. 機関誌編集委員長の選出について

垣本委員にもう一期お願いしたいが、3月に定 年退官となり4月以降の職場が未定のため引き受 けられないとのことであるため、3月の本委員会 で審議する。

4.「臨床心理士資格認定協会の大学院指定を考える会」よりの申し入れについて

第1種,2種の大学院指定とも,条件が厳しい。 (1)心理学諸学会に連絡がなく,十分論じられていない。(2)各大学の自治,カリキュラム設定への介入である,の2点が主な反対意見である。

「臨床心理士資格認定協会の大学院指定を考える会」に関するアピール(別紙藤永文書)の(1)~(4)とも、教育に深く関わる問題として、各学会とも評議委員、理事など、1、2名の代表者を出し、一致協力して議論すべきであるとの意見が多数であった。

その後,本会出席の委員より各所属大学の現状 が報告された。

その結果、・臨床心理士の資格がなくても大学の講義はできるはずである。・他大学の人事に介入している。・このルールができる以前に資格を交付していたので、ルールが後からできるのはおかしい。・員数合わせをすれば良いという訳ではなく、構造自体も変えてしまい兼ねない。・臨床心理学のみ突出してしまう。などの議論がなされた

問題点は、①大学の人事権を侵す、②他の心理 学関係の資格との関連も考えるべき、③日本の心 理学の動向をも変えてしまう、の3点に要約でき る。

資格を取得したカウンセラー自身も問題を感じている。学生の指導にも影響するので本質的な部

分を考えていきたい。

藤永文書に返事をすべきであることと、早急に 各学会で協力して、文書で明確に意見を提出すべ きだとの結論に至り、諸学会連絡会に提出するこ とになった。

5. 日本学術会議会員の候補者について

来年が選出の年に当たり、候補者を出すかどうか、どなたを推薦人にするか、を決定しなければならない。候補者は必ずしも推薦しなくても良いが、あれば事務局にご連絡いただくということではいかが?また、推薦人は必ず立てなければならないが期日がまだ間に合うので1月の本委員会で審議する。

6. 新入会員審查

紹介者がない場合,事務局長判断とする。18名の申し込みがあり、全員が承認された。

7. 次回常任運営委員会開催日

1月25日(土)のシンポジウムの後に、会場である日本大学で開催されることになった。

1996年度第5回(1997年1月)

日 時:1997年1月25日(土)16:50~18:50

場 所:日本大学文理学部 本館会議室

出席者:中村,稲毛,大久保,大島,大塚,岡村, 荻野,小野,越河,田中(昌),長谷川,馬 場,林,福原,村井,斉藤,大村,高嶋 事務局(高橋,久東,渡辺,荘村)

報告事項:

1. 第64回大会準備状況について(中村大会準備委員長)

当初の予定は9月5-7日であったが、他学会 と重なるため、8月30日(土)、31日(日)に駒澤 大学で開催する。

第1号通信は、まもなく届く。学会の開催形式 はこれまでと同様で、論文集原稿は当日受け取る。 発表申込期限は、5月30日とする。

特別講演は、駒澤大学学長奈良教授で、仏教と 心理学に関するテーマで予定している。シンポジ ウムは、第1日目に例えば「ストレスとカウンセ リング」のようなカウンセリング関係、2日目に は犯罪と応用心理学関係のテーマを予定している。

2. 機関誌編集委員会より(高橋代理) 21号は近い内に発刊の予定である。

来年度より年2回発行するが、1回目は春に予 定している。

現在,8編中1編が不採用で,5編が査読中, 2編を秋の号にする予定である。

3. 認定「応用心理士」事務局より(岡村)

応募の9名中、8名認定し、1名保留であった が認定する。名誉会員が1名の応募がある。

総数は、24名である。前年度より出だしが不調であるが、さらに3名の応募がある。ニュースレターでアピールしているが、会員以外から問い合わせがある。

認定条件や申請書の改善の必要がある。また、 改善案に沿って手引き書を来年度、改定したい。 今年度、さらに8名の応募を期待しているので、 ご協力願いたい。

4. 学会賞・奨励賞選考委員会より

選考委員のメンバーが決定しているかどうか不明であるが,正田委員が心理学会協議会出席で本日不在のため,後日問い合わせての上,確認する。

5. 学会史編集委員会より(村井)

どの程度の内容にしたらよいかであるが、学会の歴史に詳しい教員に伺ったり応用心理学研究第1号などの資料をまとめる、古い会員にインタビューを行うなどで資料の補足をしていくという方向で検討していく。機関誌の別冊形式で発行する。

かなり輪郭が明確になったが,発行時期,発送 時期をいつにするかを今後決めたい。

絵や写真なども入れる、新旧の会員による座談 会を開く、などで、新入会員でも興味を持って読 めるようなものにしたい。

その後,編集に係る予算について具体的に審議 された。

6. 諸学会連絡会より

12月25日の会では各学会での連絡事項のみで、その他は特になかった。

7. 日本心理学会主催の〈「臨床心理士」大学院指定制度、その他について〉の協議会について

12月27日に日本心理学会を中心とした協議会が 開催され、全30学会の参加があった。(別紙資料) その会議におけるさまざまな議論の内容が報告さ れた。

その結果から,「臨床心理士」大学院指定制度は, 心理学全体の問題であり,他の学会の資格にも影 響する、臨床心理士のみ学校差別が生じ、例えば 10年後には指定校のみしか受験しなくなることな どが予想される。時期的に見切り発車した形になっ たことも問題であるなどが議論された。

8. その他

事務局より、学会費の納入・未納状況が報告された。(別紙)

審議事項:

1. 日本学術会議会員の推薦人および推薦人予備者の推薦について

17期選挙の推薦人には恩田先生を事務局より依頼し、推薦人予備者には高橋事務局長を推薦することに決定した。

2. 会員の資格について

本学会規定の正会員、賛助会員、名誉会員などの項目を読み上げ確認の上、「応用心理士」認定資格の内、高校卒、専門学校卒の人について、学会入会資格と整合性がない箇所があるので、母体である学会入会資格をきちんと定めるべきであるとの議論がなされた。いくつかの案から林委員が案を作成し、次回、次々回の本委員会で検討し、次の総会で承認されるという計画で進めたい。

3. 機関誌編集委員長の交代について 現垣本編集委員長が, 鹿児島へ転出するが引き 続き引き受けて下さることになった。

4. 新入会員審査

7名の申し込みがあり、内2名が「紹介者なし」 であったが、事務局長判断で、全員が承認された。

5. 次回常任運営委員会開催日

4月以後は事務局が白梅学園短期大学に移るが、 遠隔地であるため、駒澤大学、富士短期大学での 開催を検討し、次回の3月と併せ、決定したら通 知する。

1996年度第6回(1997年3月)

日 時:1997年3月7日(金)18:00~22:00

場 所:日本女子大学 目白キャンパス 図書館 5F 会議室

出席者:中村,稲毛,内海,大島,大塚,岡村,荻野,小野,垣本,田中(昌),林,平野,正田,村井

事務局(高橋, 久東, 渡辺, 荘村)

報告事項:

1.64回大会について(中村)

第1号通信を発送後、公開シンポジウムについて検討し、家庭内暴力をテーマにしたいと考える。数年前の大会では子どもの側からの家庭内暴力がテーマであったが、今回は親側からの家庭内暴力にアプローチしたい。柴田、椎名、浅井3氏およびあと1名で企画している。

さらに、林先生企画で1つ(未定)、長谷川孫一郎先生企画で「現代青少年犯罪と大人の役割」を川邊氏他3名で企画中である。また、特別講演には、駒澤大学学長奈良氏を予定している。

2. 機関誌編集委員会より(垣本)

21号が遅れたことをお詫び、査読をしていただいた方への挨拶の後、現在、6編の投稿があり、1編が不採用、1編は今回修正が終わらないということで中止の申し出があり、4編となっているとの報告があった。1月に開催された公開シンポジウムのテープ起こしも間に合いそうなのでぜひ掲載し、4月末までに、発刊したい。秋の号には既に2編の投稿があり、9月末まで投稿を受け付ける。

また, 年 2 回発行となるので, 雑誌の番号を22(1), 22(2)のようにするか否か, 編集委員会で検討したい。

発行部数はこれまで1,300部であったが,21号は,851部発送したので,1,000部で良いのではないか。 広告掲載依頼についてと併せて,審議事項で審議する。

3. 認定「応用心理士」事務局より(岡村) 2月28日第9回審査委員会を開催した。

また、大村・高嶋両委員の辞退申し入れについて検討した結果、任期まであと僅かであるため、 それまで続けていただき、審査委員長については、 大村委員長に代わり、岡村委員が事務局長を兼ねて互選された。

審査については、7名申請があり、6名が認定され、1名は前回保留であったが、今回も保留となった。入会後2年経過という条件があるが、今後検討したい。

一般会員では、昨年度50名、今年度30名で、計80名認定されている。

4. 心理学会協議会について (荻野)

第1回が12月27日, 第2回が1月25日に開催さ

れ,「臨床心理士」大学院指定制度について,正田 委員が「臨床心理士資格認定協会の大学院指定を 考える会」と本学会の姿勢はほぼ同じであると報 告した。第3回が3月8日に開催され,ワーキン ググループに分かれて検討する予定である。

5. 学会史編集委員会より(村井)

日本大学博士課程3年の鈴木さんが学会史編纂 をお手伝い下さることになった。

1年間でまとめる方針である。「日本心理学会の 50年史」(金子書房)「産業組織心理学会の動向」, 第60回大会(鹿児島大)論文集を資料とする。

次の本委員会に目次案を提出し,また,鈴木さんの報酬についても検討したい。

6. 学術会議会員推薦人及び推薦人予備者について (高橋)

前回,推薦人に恩田先生をということであった がご辞退されたため,中村会長が引き受けて下さ ることになった。

7. 諸学会連絡会より(荻野)

社会心理学会が「さいころじすと」担当で、3月7日に発行予定である。

次の「さいころじすと」担当は犯罪心理学会に 決定したが、テーマとして資格問題を取り上げた いとの意向である。各学会に資格の現状把握のた め、原稿を依頼する。本学会でも、認定「応用心 理士」を明確にしておく必要があるのではないか。 審議事項:

1. 学会賞・奨励賞選考委員選出について 機関誌が中心となるので、選考委員には、垣本、 越河、荻野各委員でスタートしたいという提案が 承認された。

2. 平成9年度公開シンポジウムについて 中村委員より、大会のシンポジウムと重複しな いようお考えいただきたい、さらに、大島委員よ り、アートセラピー(芸術療法)もテーマの一つ としたらいかがか、などの提案があった。次回、 再度、検討する。

- 3. 第66回大会開催校について 次回までに、各々具体案を提出する。
- 4. 会員の資格について

林委員が、会則改正案(別紙)を提案した。 現在の会則は、現状に合わない。特に、第4条 は、認定「応用心理士」規則では4年制大学卒で なければならず、整合性に欠ける。改正案では、 学生会員および減免措置を入れている。

また、例えば、外国のあまり知られていない大学卒業という場合や通信教育・放送大学の場合などで、現在、学生会員の制度がないため判断が難しくなる、また、看護婦の場合、4年制大学卒業の基準であると当てはまらない、など重要なさまざまな問題が指摘された。従って、これらの点を考慮して、次回総会(8月30日)で承認が得られるよう検討を進め、改正案を作成することになった。

5. 機関誌編集について

垣本編集委員長より,発行部数,ページ数,広 告掲載について,提案があった。

発行部数はこれまでの1,300部を,実質発送部数やバックナンバーの保存などを考慮し,1,100部印刷し,100部学会側で保存する。21号は122ページであるが,予算と発行部数を考慮し決める。広告は現在1件依頼が来ていて,勧誘努力も重要だが,今のところ依頼が来た場合に掲載する,などが,審議・承認された。

- 6. 新入会員審查
 - 9名の申し込みがあり、全員が承認された。
- 7. 次回, 次々回常任運営委員会開催日 次回は4月25日 (金) に駒澤大学で, 次々回は 5月30日 (金) に富士短期大学で開催されること になった。
- 8. 新旧事務局長挨拶

旧高橋たまき事務局長(日本女子大学),新荻野 七重事務局長(白梅学園短期大学)より,新旧交 代の挨拶があった。

会員異動

新入会員(1996.4月~1997.3月)

(氏名, ① 現住所, ② 所属)

高杉 圭一

②駒沢大学大学院人文科学研究所心理学専攻 修士課程 在学中

久保 純子

②北星学園大学 研究生 鳥越 佐和子 ②日本大学大学院文学研究科心理学専攻 在学中上野 いずみ

②駒沢大学大学院人文科学研究科

心理学専攻 在学中

石風呂 素子

②駒沢大学大学院 在学中 殿村 由希

②日本大学大学院文学研究科心理学専攻 博士前期課程 在学中

永末 貴子

②駒沢大学大学院人文科学研究科心理学専攻 ②岐阜大: 修士課程 在学中 松田 東子

島津 明人

②早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻 博士後期課程 在学中 種市 康太郎

天野 寛

②愛知県立尾張看護専門学校 非常勤講師中田 栄

②鳴門教育大学大学院学校教育研究科 在学中 石原 典忠

②大阪府立盲学校 教諭 長谷川 知子

②静岡県立こども病院 遺伝染色体科医長 芳賀 繁

②東和大学 助教授 福岡 欣次

②同志社大学大学院文学研究科

博士課程後期 在学中

寺田 敦子

②佐賀医科大学医学部看護学科 助手 大野 智 ②東京国際大学大学院社会学研究科 在学中 吉田 恵理子

②佐賀医科大学医学部看護学科 助手 飯澤 麻

②北海道大学医療技術短期大学部 助手 松田 好美

②愛知県立看護大学 講師 森田 敏子

②岐阜大学医療技術短期大学部 助教授 松田 東子

②東京国際大学大学院社会学研究科 在学中 種市 康太郎

②早稲田大学大学院文学研究科 在学中 和田 有史

②日本大学大学院文学研究科博士前期課程 在学中 西 晃兵

②中京大学大学院文学研究科心理学専攻 修士課程 在学中

新美 浩二

②中京大学大学院文学研究科修士課程2年 在学中河村 はるひ

②中京大学大学院 在学中 竹田 千穂

②中京大学大学院文学研究科修士課程2年 在学中 橋本 健次郎 ②松下電器産業(株) 照明研究所 主席研究員 玉井 宏尚

②中京大学大学院文学研究科修士課程2年 在学中 川西 陽子

②中京大学大学院文学研究科博士課程 在学中 冨田 晶子

②山形大学医学部看護学科 助手 青木 喜久雄

②東京工業大学大学院社会理工学科

博士後期課程 在学中

久能 由弥

②北星学園大学大学院文学研究科

社会福祉学専攻 在学中

大沼 夏子

②九州大学大学院文学研究科心理学専攻 修士課程 在学中 大上 渉

渡邉 はま

②日本大学大学院文学研究科心理学専攻 博士前期課程 在学中

布施 美和子

②早稲田大学大学院文学研究科 研修生 大橋 靖史

② ㈱パブリックヘルスリサーチセンター 研究員吉田 昌之

②女子美術短期大学学生厚生部 事務職員 田中 昌人

②龍谷大学文学部 教授 木島 恒一

②文京大学人間科学部 非常勤講師 武田 美津代

コーポラス雪月花 212

②新潟県立看護短期大学 助手 中村 隆宏

②大阪大学大学院人間科学研究科 在学中 河合 悟

②中京大学 教授 安藤 満代

②九州大学文学部人間科学科 助手 永嶋 由理子

②産業医科大学産業保健学部看護学科 助手中釜 洋子

②東京大学大学院教育学研究科 助手 室田 法子

②山口県立大学介護学部 助教授 大上 渉

②九州大学大学院文学研究科心理学専攻 臼井 喜彦

②日本大学大学院文学研究科心理学専攻 博士前期課程 在学中

永安 美香子

②英国国立ロンドン大学大学院 産業・組織心理学部 在学中 笹田 哲

②東京都立医療技術短期大学 助手 金子 潤

②常磐大学大学院人間科学研究科 在学中 浅井 由美子

②三島市立坂小学校 教諭 佐藤 秋子 ②國學院大学栃木短期大学 助手大木 辰史

②兵庫県立上野ヶ原養護学校 教諭 樋上 敬雄

②大津市立志賀小学校 校長 浅沼 恵

②浅沼医院東洋医学鍼灸治療室 総務部長 下田 米啓

②田ワールド企画 代表 岡田 和美

②厚木市保健センター 非常勤相談員 志賀 信子

②なるほど塾 講師 三宅 隆之

②東京都商工指導所 主任指導員 佐伯 勝幸

②自動車事故対策センター 主事 富岡 栄蔵

②札幌市立光陽小学校 校長 大友 達也

②札幌医療科学専門学校 講師 (財) 総合教育研究所ホノルル大学 オリエント校 講師

齊藤 慶典

松永 淳子

②日本大学大学院文学研究科心理学専攻 博士前期課程 在学中 清水 雅信

②福岡県警察本部科学捜査研究所 技術吏員

②栗田 喜勝

②吉備国際大学社会福祉学部 助教授 田中 真介

②京都大学総合人間学部 助手 谷口 俊治

②椙山女学園大学短期大学部 助教授 坂倉 恵美子

②北海道大学医療短期大学 助教授 御園生 晴彦

② (株) サイエンス社 編集部課長 野崎 佳子

②杉並区立杉並第 4 小学校 教頭 神田 信彦

②白梅学園短期大学心理学科 助教授 星野 明子

②山形大学医学部看護学科 助手 生駒 和子

②東京都立北多摩看護専門学校 専任教員 大塚 廣子

②東京都立府中看護専門学校 専任教員 小林 幹児

②産能短期大学 非常勤講師 松谷 さおり

②山形大学医学部看護学科 助手

退会者(前号掲載以降)

青木 民雄, 荒砂 正名, 福安 幸枝, 原田 幸嗣, 服部晶之助, 服部美樹子, 市原 茂, 今留 忍, 糸日谷秀幸, 川守田正康, 小林美和子, 小堀 雄三, 国司 義彦, 許 佳美, 松本 重孝, 松野 凱天, 三輪 憲道, 三宅 章介, 持永 豊孝, 森本 梅雄, 長澤 哲史, 長塚 恭一, 南波 薫, 新田 泰正, 野田 重雄, 大根田充男, 岡本 達, 岡崎美代子, 佐野良五郎, 佐藤 守男, 田島由美子, 竹ノ上ケイ子, 田名場美雪, 田中 國夫, 谷 嘉代子, 東海林靖子, 豊増 佳子, 常間地ひとみ, 渡辺 好章, 八木 邦夫, 矢田部菜穂子

長期滞納による退会者(1997.4.18現在)

橋爪 広好、稲富 正治、井下 理, 金子 泰雄, 茅島 江子, 松坂 利之, 森山 敏文, 永井 隆寿, 中川 敦子, 尾又 昇司, 白井 俊子, 谷口 知司, 寺崎 裕志, 富高小百合, 内野 悌司, 若山 隆良, 渡辺真一郎,柳沢 千衣,藤吉 晴美,福田美由紀, 浜中 淳, 浜野 文彦, 北條 理史, 井上僖久和, 井上 孝代,石田喜代子,片山 吉晴,木村 尚代, 岸本 英爾,小林 正和,李 淳哲, リンイケイ, 前田 知男、松田 明子、松井 賚夫、三根 浩, 育代, 持留 英世, 長野 文典, 西野 溝口 泰広, 大村 孝子, 岡田 容子, 佐柳 武, 式村 正明, 東内 和正, 矢ヶ崎誠治, 山下 伸, 堤 素邦, 秋山 邦久, 荒木 敏宏, 遠藤小夜子, 花田 妙子, 彰,香川 岩田 真,神田 愛子,永井 真司, 内藤 忠昭, 中丸 茂,新井田 正,西山 啓, 邦愛, 佐藤 手織, 鈴木 信子, 岡崎 康治, 堤 良臣, 豊嶋 秋彦, 土屋有利子, 都築 高橋 忠義, 内田 文江, 山本 太郎, 米田佳代子, 湯本 信夫, 秋山 弘美, 馬場 りえ、醍醐 敦子、藤垣 裕子, 藤田 政義,藤津 公子,芳賀 明子,橋田 勝美, 光, 石渡 博幸, 石山 尊文, 伊藤 猪下 太平, 金子 保,川島 直美,小池 妙子,小関 賢, 松本 伸夫, 箕口 雅博, 永松 純, 中島 史明, 尾川 丈一,大藤 享,大草 正信,小沢 浩二, 関根 一美, 島村 千樹, 田中 香織, 臼井 博晤, 裕文, 渡辺 成夫, 八木美楠子, 矢内 若月 文, 米澤 壽一, 江藤千恵子, 藤井美登里, 花田 光世, 板垣 文彦, 板井 修一, 加部祐子三, 金子由賀里, 込貝かつみ,近藤 千恵,小菅 茂雄,松尾 圭子, 松下美貴子, 水田 茂久, 武藤 敬子, 名取美津代, 小倉 洋子,大内 五介,岡堂 哲雄,佐藤 哲男, 鹿内 啓子、島田 奈美、新村摩美子、墨岡 孝, 寺田 雅英, 氏原 雅俊, 渡辺 均, 矢幡 洋,

千葉 浩彦, 渕上 克義, 萩原 茂, 平岡 正寿, 飯田 裕康, 樫本三智子, 丸山知佳子, 永井 真司, 長尾 勲, 佐藤 佳子, 山口 寛子, 山中 寛, 湯川 倫代

逝 去 (前号掲載以降)

謹んでご冥福をお祈り致します 板倉 善高,篠原 英壽

一訂正一

第21号106頁右側27行目の記載を次のように訂正し、 お詫び申し上げます。

谷内泰富氏 → 谷口泰富氏

寄贈文献

学会事務局に以下の雑誌類・著者(平成9年3月まで)が寄贈されていますのでご利用下さい。

一定期刊行物一

安全工学シンポジウム講演予稿集(日本学術会議 安全工学研究連絡委員会)1996 第26回

母子保健情報(恩賜財団母子愛育会)1996第34号電気通信普及財団研究調査報告書(電気通信普及財団)1997 No.11

発達障害研究所年報(愛知県心身障害者コロニー 発達障害研究所)1995 第24号

放送研究と調査 (NHK 放送文化研究所) 1996-8, 9, 10, 11, 12, 1997-1, 2, 3, 4

International Association of Traffic and Safety Sciences (国際交通安全学会) 1996 Vol.22 Nos.2 1997 Vol.22 No.3

児童教育研究(安田女子大学児童教育学会)1997 第6号

人事試験研究(日本人事試験研究センター) 1996 Nos.160, 161, 162

科学警察研究所報告-防犯少年編-(科学警察研究所) 1996 第37巻 第1号

科学警察研究所報告-交通編-(科学警察研究所) 1997 第37巻 第2号

慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要(慶應義塾 大学大学院社会学研究科)1996第43号

研究紀要(鹿児島女子大学)1996 第18巻 第1号 健康心理学研究(日本健康心理学会)1996 Vol.9

Nos.1, 2

基礎心理学研究(日本基礎心理学会)1996 第15巻 第1号

こども家庭福祉情報(恩賜財団母子愛育会日本総合愛育研究所) 1996 Vol.12

名古屋大学教育学部紀要・教育学科(名古屋大学 教育学部)1996 第43巻 第1号

名古屋大学教育学部紀要·教育心理学科(名古屋大学教育学部)1996 第43巻

日本語国際センター紀要(国際交流基金日本語国際センター) 1997 第7号

人間関係学研究(日本人間関係学会)1996 第 3 巻 第 1 号

応用社会学研究(東京国際大学大学院社会学研究 科)1996 第6号

産業安全研究所安全資料 (労働省産業安全研究所) 1996 No.14

産業安全研究所研究報告(労働省産業安全研究所) 1996

産業安全研究所特別研究報告 (労働省産業安全研

究所) 1996 No.16

指導と評価(日本教育評価研究会)1996 Vol.42 Nos.9, 10, 11, 12, 1997 Vol.43 Nos.1, 2, 3, 4

心理劇(日本心理劇学会)1996 第1巻 第1号 スポーツ心理学研究(日本スポーツ心理学会)1996 第23巻 第1号

テレビ・ラジオ番組個人視聴率調査・全国結果表 (NHK 文研・世論調査部) 1996 11月

東海大学紀要(東海大学教育研究所)1996 第 4 号 筑波大学心理学研究(筑波大学心理学系)1997 第 19号

早稲田心理学年報(早稲田大学文学部心理学会) 1996 Vol.29 No.1

全心協ニュース(全国保健医療・福祉心理職能協会) 1997 Nos.16, 17, 18, 19

一図書一

サイコロジストのための倫理綱領および行動規範 (他) 日本心理学会) 訳 冨田正利・深沢道子 校閲 小島祥三・大塚英明 1996